多田の里 だ よ り

多田小学校通信　　令和５年７月２０日号　ミマモルメ配信

一学期を終えて

あっという間に今日が来ました。新教育課程（学年担任制・教科担任制・午前５時間授業）を行い、子どもたちの自律に向けて進みだした一学期でした。学年によりその実施形態は異なりますが、ここ数年間を思い返してみると、子どもたちがそれぞれの学級で穏やかに過ごしている場面が多かったように感じています。学校での生活です、いろいろなトラブルもありました。その都度当事者の子どもたちや学年の先生、保護者のみなさんと相談しながら進めてきました。欲を言えば、もう少し、子どもたちそれぞれが、穏やかに思いを語る場面があってもよかったとも思います。

一学期末には、２年生以上を対象にアンケートを実施しました。保護者のみなさんにも同様のアンケートに協力いただき、その集計と分析をこれから教職員で行っていくところです。教職員だけでなく、子どもたちや保護者の思いも大事にしながら、これからも進めていきたいと思います。

多田小学校は明治１２年１１月に誕生し、その時々の社会情勢に大きな影響を受けながらも、子どもたちを中心に日々の生活を積み重ねてきました。教室で学習し生活していくことは今も昔も変わりませんが、今の時代は社会が大きな変革期に入っていることは、この数年間でひしひしと感じています。学校の学習にも大きな変化が来ています。今では当たり前のタブレットもその一つです。夏休みの宿題の中にも入っていることでしょう。子どもたちがこれからの時代に対応できるよう学校も大きく変化しています。二学期に向けさらに検討を進めていきますので、これからもよろしくお願いいたします。

修学旅行にて

「やさしくしましょう。」修学旅行の朝、６年生へ伝えました。広島市につく頃には大雨(警報まで出ました)となり、予定を大きく変更する事態となりました。変更があるたびに先生からの説明をみんな聞いています。不平不満を言う子どもたちはいませんでした。落ち着いて次の状況に対応していきます。修学旅行ではテンションが上がりすぎて、先生たちが叱りだすことがよくあります。そんなこともほとんど必要ありませんでした。集合時間が近づけば、お互いに声を掛け合って集まります。ちょっと遅れても「遅れてすみません。」で終わりです。食事の時間もみんなで協力しながらご飯をよそったり、お水を配ったりしています。自然なふるまいで穏やかな時間が過ぎていきます。「やさしくしましょう。」のいらない普通の生活です。自然な「やさしさ」というのでしょうか。そんな６年生でした。

私たちは、日ごろからついつい言ってしまいます。「はやくしなさい。」「〇〇はできたの！」・・・。子どもたちのことを思い、先回りしています。修学旅行中に反省しました。子どもたちが失敗することを過度に予防しすぎているのではないか。時間に遅れてもいいし、友達とトラブルになってもいい。そこからどう調整していくかが大事な気がします。「しゃあないなあ。で、どうしましょう？」と相談できる人になりたい。そんな反省をする修学旅行でした。

今後の予定について

７月２０日現在　各学年の予定は学年だよりをご覧ください

夏休みの心配と準備

子どもたちにとって楽しみな季節がやってきます。宿題があるとしても、自由にさまざまな体験ができる期間です。日常の体験ではなく、非日常の体験が楽しみになります。学校ではない場所での体験がなんだかワクワクさせてくれるのでしょう。ただ遊んでいるように見えます。しかしその体験はその人に記憶され、これから先での学びにつながる時が来るかもしれません。ある人の記憶では、夏休みは毎日赤橋の下流で釣りばかりしていました。その体験が中高大へと広がっていったのでした。

遊びながら学ぶとはいえ、夏の暑さが心配です。むかしのそれではなくなりました。学校でも暑さ指数を見ながら外遊びの可否を決めています。しかし、それ以前に、帽子をかぶる、お茶とスポーツドリンク等、水分をしっかりと用意するなど事前準備が重要です。それでもお茶をしっかりと飲んでいると水筒が空っぽになることがあります。そんな時、子どもたちはどうするのでしょうか。以前は迷わず水道の水を飲んでいました。川西の水道はしっかりと管理された水が供給されています。水筒が空になれば、水道水を飲むことができます。そんな心の準備が必要かもしれません。しっかり遊び、しっかり暑さ対策をする。そんな夏休みを過ごしてほしいのです。宿題も忘れずに・・・。